

第5回石巻市震災復興基本計画市民検討委員会要旨

1. 日時、場所

平成23年7月9日(土) 14時00分～16時00分 石巻市役所 庁議室

2. 検討委員会委員

別紙名簿のとおり

※公益社団法人日本看護協会看護教育研究センター研修学校救急看護学科専任教員
石井美恵子氏がアドバイザーとして出席

【生活部会】

① 委員長挨拶

お忙しい中、暑い中御出席いただきありがとうございます。産業部会は2回開催し活発な議論をしているところです。生活部会は、平常時から必要なことがたくさん含まれておりますので議論は難しい部分があります。本日は、事務局の資料をもとにどういった事業を優先すべきなのか熱心な議論をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

② 資料説明

第5回検討委員会資料に基づいて木村主事より説明。

③ 要旨

※要旨中【】内の数字については、資料1の提案番号

(委員)

- ・安全・安心のソフトを実現するためには施設が必要です。【77】、【167】「住居・医療・介護・生活の複合施設」、「外部サービス付き高齢者住宅」は福祉の充実のためのとても良い案で、実は私も必要と感じていましたのでぜひ実施してほしいと思います。
- ・病院と福祉施設等の連携、ネットワークの強化により切れ目のない医療や保健指導をしていただければ良いと思います。また、避難者の食生活改善と保健指導による疾病の予防を第一に取り組んでほしいです。

(委員)

- ・【24】の提案のように、交通弱者(車椅子利用者やベビーカーなど)の視点からまちづくりをする考えに共感します。ぜひ、当事者の意見を聞いてインフラ・建物の整備をしてほしいと思います。
- ・車椅子利用者のために、立町などに車いすパーキング設置をしたり、乗車・降車時に雨に当たらないアーケード設置など、ハード作りには利用者の声をしっかり聞くことが有効だと思います。

(委員)

- ・【145】の提案にもあるように、中心市街地への居住を促すため病院を中心市街地に整備するのは良い案だと思います。高齢化社会になっていきますので、誰もが安心して暮らせる街づくりを目指すべきですので病院は必要です。

- ・【66】の提案にもあるように立町を歩行者専用道路にして、【154】の提案のように、駅前から中瀬まで歩いて買い物できる市街地にしてほしいです。商店街の裏側には駐車できるスペースを設置すると、より便利になると思います。病院や学校もまちなかにつくれば、高齢者も子どもも住みやすい街になると思います。
- ・第4回検討委員会の資料にありました石巻ガスの新エネルギーについての提案ですが、研究施設が設置されれば世界に注目されますし、注目されることが市民の誇りになると思います。

(委員)

- ・中瀬には施設築造について法的な制限があり、これまで実現が難しいこともありましたが、これを機に中瀬にルネッサンス調の建物を建てたり、川沿いの建物を昭和初期風にしたりするなど、ヴェネチアになぞらえて「ナカゼチア構想」を実現して欲しいと思います。
- ・中心市街地を復興するのであれば駅を使いやすくするなど公共交通機関を充実し、市街地にいけば、すべての用が足せるようにしてほしいと思います。
- ・スポーツ施設はどこも駐車場が不足しています。施設のキャパシティに合った駐車場の確保をお願いします。
- ・観光については、例えば、日本三景の松島を見物しにきた観光客が石巻駅周辺の宿泊施設にチェックインした後、中瀬までゆったり歩いて街を散策し、そこでおいしい食事をとり、ホテルに帰りながら小柳町で飲酒をして、翌日は、車で牡鹿半島の名所観光をするなどといった誘導が必要であると思います。

(委員)

- ・地方自治の原点は安全・安心が基本です。市立病院は「地盤沈下もあり、現在地での再建は困難」というのが市の考えのようですが、専門家の意見を聞くと「あれだけの津波に耐えた病院なのだから、復興の核とすべき」との声もあります。「まずは仮設で復旧する」、「もう石巻市立病院は不要。日赤病院を拡張すればいい。」など様々な意見があります。移転する場合には、場所選定など意見集約が難しいので、市立病院は現在地で再建すべきと考えます。現在地で市立病院を再建することを肯定する理論武装は可能と考えます。
- ・石巻は門脇村から発展した歴史がありますので、文化センター、市立病院、日和山の南斜面は石巻の歴史ということでまちづくりに活用してほしいと思います。

(委員)

- ・県道石巻鮎川線は海岸沿いを通る箇所が9箇所あり、この箇所のバイパスを早期に整備しないと災害時に牡鹿地区は陸の孤島となってしまいます。十八成は、すでに満潮時は、冠水により陸の孤島化をする場合もあります。「街づくりは道路から」が基本であると考えます。
- ・避難所から仮設住宅に移り、その後の移転場所がどうなるかが、家を失った市民の大きな課題になっています。住まう所をはっきり決められないのでは前に進むことはできません、どうか早く方針を示して欲しいと思います。
- ・【120】の市議会議員・行政職員の削減に賛成します。このような非常時に地域の課題をまとめるなど活躍すべきなのに議員の顔が見えません。
- ・福島県内で自殺者が増加したそうです。原発の被害が原因のようですが、石巻市でも被災者の心のケアがとても大切であり必要だと思います。
- ・生き抜くためには雇用の場の確保が必要です。牡鹿地区は観光が早期の実現性がある産業だと思います。

- います。金華山に橋を架けるとかケーブルカーで移動するなどの構想もおもしろいと思います。
- ・東北電力に要請すると放射線の被爆量の早見表で説明してくれます。誰が見てもわかりやすい被ばく量の早見表を各家庭に配布するいいと思います。

(小野田委員長)

- ・牡鹿地区には東北大学の学生が現地入りし、住民の皆さんの声を聞いて浜ごとの処方箋を作ることになっています。
- ・心のケアは避難所にみんなでいる時よりも、仮設住宅に入って一人になった時に問題が顕在化すると思います。集会所の整備や訪問サービスなどソフト・ハードの対策が必要になります。

(委員)

- ・【145】、【163】の提案にもありますが、文化センター等教育文化施設を中心市街地へ移転したほうがいいと思います。なぜなら、街中には大勢が入れる施設がないからです。ただし、駐車場が必要な施設については、敷地を広く取れる郊外でも良いと思います。
- ・市が示したゾーニングでは南浜地区は公園になっています。【170】又は【126】の提案にある津波学習館には南浜地区に残っている施設の利用を考えて欲しいと思います。
- ・【146】の提案にあるように、渡波地区に病院を設置することは半島方面の患者のために必要だと思います。日赤病院側から女川方面に道路が延びてきておりますので、連携もうまくいくと思います。
- ・【5】に学校についての提案がありました。仮設校舎の建設が進んできましたが、本設の際は学校の再編を含めて考えるべきだと思います。

(小野田委員長)

- ・半島部では人口が動いておりますので、将来像を明確にして学校建設を進めることが必要です。
- ・病院は市町を越え東松島・女川を含めた地域医療圏として国・県と調整しながら進めていく必要があります。

(委員)

- ・学校の建設場所についてですが、距離が遠いから中間点にするとか、人数が少ないから多いほうに統合するとかでなく、このような災害があったのだから安全な場所に建設することを優先すべきです。安全であれば、有事の際には避難所として役立ちます。
- ・文化センターや市民会館などの人の多く集まる施設は安全な場所に建設すべきです。北上川は風光明媚な場所ですが、反対に危険な場所でもあります。中瀬を利用した観光を考える際にも安全を第一に進めてほしいです。

(委員)

- ・【59、60、66、145、146、163、167】に医療関係の提案がありますが、すべて必要であると思います。
- ・日赤病院は3次高度医療を担い、民間医療機関は1次医療機関を担っています。市立病院はその間に位置するので市立病院の再建は必要です。市立病院の機能は、日赤病院と同等である必要はなく、日赤病院を補完し2次医療、慢性医療に対応する機関として再建するのが望ましいと思います。
- ・市立病院の再建場所は「現在地」や「災害に強い別の場所」などいろいろな案があります。渡波地区に病院を建設するという提案については、市立病院を再建して渡波地区に分院化するのか、二つ

目の市立病院を渡波に新しく建設するのか、どちらなのかという気もしますが、渡波地区に仮設診療所を建設しようという構想もあったのですから、市立病院の建設候補場所として渡波地区も挙げてよいのではないかと思います。

- ・夜間急患センターが休止しています。急患センターでは主に救急患者の診療をしていたのですが、休止していることにより特に小児科救急患者を診療できる病院がありません。早急に立ち上げる必要があります。
- ・医療モールについて、一般的にモールに入るか否かについては医者側が選択するので、同じ診療科が複数入る場合もあれば、必要な診療科がない場合もあり得ます。都心部のビル診療所は、コンパクトに開業できるというメリットがあります。医療モールを設置するに当たっては、ビルに入って開業することで医者側にどのようなメリットがあるかを考える必要があります。

(委員)

- ・震災記念館、語り部、マンガというキーワードが提案にあります。津波の経験やボランティア活動の素晴らしさをマンガ、アニメで伝えられれば良いと思います。子孫に伝えるのはもちろんですが、全国に貸し出すなど他地域へ広める取組も必要です。
- ・スポーツ振興に関して、スポーツ大会は1泊2日など泊まりがけで行われるので宿泊施設の整備をすればより経済効果やリピーターがあると思います。石巻はボート、カヌー競技が盛んですので、川に競技場等の施設を整備するのも良いかと考えます。
- ・公営ギャンブルを開設し、人を呼びお金をまわすことが大きな経済効果を生むと思います。
- ・市立病院は、消化器内科が優れ外科との連携が良好でありました。消化器医療センターを作ってほしいと思います。また、日赤、市立病院、民間病院の治療後のリハビリ科を市立病院に作って欲しいです。

(委員)

- ・「災害に強いまちづくり」、「安全・安心なまちづくり」をキーワードにすれば市立病院の移転は、救急患者の搬送も必要ですので、三陸道を活用できる稲井地区も考えられます。
- ・駅前振興について、石巻駅ができたころ中里地区は水田で調整池の役目を果たしていましたが、駅前まで水は来ませんでした。中里地区の市街化に伴い駅前に水が集まるようになったので、駅の高層化は必要です。しかし、ペDESTリアンデッキが良いのかは疑問です。避難用ということであれば必要かもしれませんが、実際には人通りが少ないこともあり、水害対策のために何がベストかよく考えるべきです。
- ・旧北上川の水位が高いので河川施設が重要です。河南まちづくり委員会でも最初に挙りましたが、右岸堤防の補強をお願いしたいです。
- ・市街地のコンパクトシティ化をぜひ実現し、避難高齢者の行く先として市街地に高層住宅を作ってほしいと思います。そのためには区画整理、道路整備が必要です。

(委員)

- ・生活の場、住居が大事ですのでイメージ図にある複合的施設が必要です。仮設住宅の後、どこに住でもらうのかが重要な問題です。住宅地需要に対して供給量はどれくらいあるのか、早くから安全な場所に宅地の用意をする必要があります。持家を建てられない人のためにも、賃貸に入る人数を把握し複合的施設のようなものを建てる必要があります。
- ・河北地区は 400 戸の仮設住宅に集落ごとに入居し、自治機能が維持できています。これから建

設される 450 戸には他地区の人が入居するので、自治機能が確立されるのか心配しています。治安、学校の問題が出てくるので市の支援が必要だと思います。

- ・リーダーの発掘が協働まちづくりのためにも必要です。

(委員)

- ・委員の皆様からは、コンパクトシティを目指す旨の意見が多く、中心市街地活性化を目指す者として力強く感じました。仮設住宅の後どこに住むかは重要な問題ですし、漁港をまとめることは集落をまとめることになりますので、住まう場所の構想を早く出して欲しいです。
- ・産業は、工業、水産、農業、商業について取り組んでいるがトンネルに入っている状態で、早く明かりを見つけない状況です。
- ・ガレキの処理・撤去が遅れているようですが、行政の指針を示してもらいたいです。

(生活環境部長)

- ・環境省のまとめでガレキの量は 616 万トン、6 月 28 日時点で 1 次処理は 84 万トン(14%)搬入済みです。公道などは概ね終了しており、これから家屋の解体撤去に着手するところです。2 次処理は県に委託しておりますが、県・市とも 3 年以内にガレキ処理を終える目標です。

(小野田委員長)

- ・仮設住宅の後どのようなまちづくりをしていくか、市で検討している案ができればこの場でも議論できるようお願いします。石井先生には、委員の皆様のご意見を聞いていただいた上で、アドバイスをいただければと思います。

(石井アドバイザー)

- ・一般の避難所で寝たきりになる高齢者が増えていくのが心配だったので桃生地区に福祉避難所（以下、トレーニングセンターという）を立ち上げました。高齢者が日常生活でいかに運動ができるかという観点でトレーニングセンターを作りました。入所から数日で高齢者は寝たきりの生活から機能回復が見られ、表情も変わってくるのが、しかと見て取れます。高齢者の方々の潜在能力の高さを実感しております。まちづくりでも高齢者が歩き、買い物をしたり、子ども達と触れ合えたりできるようなコミュニティづくりが重要ではないかと感じています。
- ・災害支援に従事される方々がよく陥りがちな考えですが、援助を得られること支援を得られることが幸せであることとは関係なく、孤独死を予防するわけではないということです。自分が社会の役に立っているか、自分の生きがいを見出せるかが幸せのために必要です。
- ・阪神淡路大震災の例でも、最上階に居住し、他の階層と接する機会がない高齢者に比べて、1 階に住み、階段の掃き掃除など日常的に近所と接する機会が多い高齢者の方が、孤独死が少ないという報告もあります。
- ・高齢者や障害者を守ってあげるという考え方ではなく、高齢者や障害者が市民の一人として参加できるまちづくりが自殺や孤独死などを防ぐのに有効な方法です。
- ・砂利道でなく舗装道にして高齢者が歩ける仮設住宅の整備をお願いしたいと思います。動くことがうつの防止になります。土いじりなど高齢者に生きがいを与えることも必要です。
- ・医療については市立病院の再建が気になります。個人的な考えですが、ネットワークにより医療・介護・福祉を連携し各医療機関と機能分担することにより地域に効率的・効果的なシステムを導入するなど未来型の医療システムを構築することを期待しています。
- ・医師、看護師の流出が懸念されていますが、市立病院が再建するかどうか、いつ再建するかは分

かりませんが、その間も医師や看護師が雇用ベースで生活できるようなまちづくりをすることも重要です。

- ・今回の経験から避難所のあり方に問題意識を持っています。ライフラインのない状態でどう避難所を運営するか、医療でカバーすることには無理があります。災害を踏まえて、災害が発生してもちゃんと対策が事前にとられているような「石巻モデル」を作っていただき、全国に発信していただければと思います。

(市長)

- ・市立病院の再建を市民がどう考えているか聞きたいです。市としては市立病院の再建は絶対必要と考えています。医師は一部転出していますが、看護師は今も残って頑張ってください。
- ・これからの医療のICT化、高齢化・過疎化になったとき診療所体制をどうするかが課題で、それを考慮した医療ネットワークを考える必要があります。
- ・避難所については毎日状況が変化し不十分な対応であったことは反省しています。夏場を迎え衛生環境が悪くなるため、高齢者の健康管理が大切ですので、二次避難として短期で温泉地に行って健康を回復してもらおう「石巻モデル」を実施しています。鬼怒川温泉に2泊3日などで行ってもらおう取組を行っています。
- ・仮設住宅に入居した方も入浴や二次避難の制度が利用できないか検討します。

(委員)

- ・市内でも医療用連絡網が各家庭に設置されている地区があります。パソコンを設置するなどして全世帯から毎日血圧などの情報を収集し医療データを管理する例は全国の中でどこにありますか。これからは高齢化が進みますし、市立病院の運営には大きな経費がかかりますので、医療データを管理してもらえれば、病院に行く回数が減ると思うので、市の財政の負担軽減にもつながると思うのですがいかがですか。

(石井アドバイザー)

- ・知っている範囲では全世帯に医療データを管理するコンピューターを設置している例はありません。
- ・患者自身が自律的に健康管理をできるかが問題です。コンピューターのようなハード面での支援だけではなく、医者や医療関係者による健康指導を一体的に講じなければ効果はないと思います。鶴岡市のモデルを例示すると、医者等による市民との健康講話等の取組を数年にわたって着実に進めており、その結果、救急受診の必要がない患者の搬入が減少し、全体の救急受診数が減少しているそうです。

(市長)

- ・計測した血圧等の情報が自動的にコールセンターに送信されるシステムが完成されており、このシステムの導入について県を通して総務省に申し込んでいます。

(石井アドバイザー)

- ・今回の震災は、津波による被害が甚大だったこと等の特徴もあり、阪神淡路大震災及び中越地震がそのままモデルになるというものではないことに留意する必要があります。
- ・安心コールシステムなど通報する機械はありますが、導入した場合に、ソフト面、すなわち異常通知を受け取った後にどうするのかという受け皿をどうするかが非常に難しいという意見もあります。農協などで実施している例はありますがソフト面に費用がかかりますし、毎日何かある

わけではないですが異常時に備えてスタッフを配置しておかなければならない事などをあわせて考える必要があります。

(委員)

- ・3～4年前まで県医師会で運営する「緊急医療通報システム」があり、石巻も参加していました。登録した高齢者が機器を設置し、何かあればボタンを押し、県医療センターに通報され、支援員が調べに行くシステムです。その運用費は高く、民間警備会社が導入したシステムが安価なためそちらに移行し、各自自治体から撤退していますが、もったいなかったと感じています。

(委員)

- ・市立病院の再建を希望していますが、民間私立病院を誘致する選択肢はないのでしょうか。

(委員)

- ・復旧期が大事です。全流出地区に住んでいましたが住宅地を復興できるか不安を抱えています。工業港の北側の壊滅地域に住んでいる親戚が多数被害を受けてしまいました。農業を行っていた親戚についてはもう農業はしないと断っています。築山、三又、中浦地区、このエリアをどうするのか、9月11日までは建築制限がかかっていますが「復旧期」の方針を早く示して欲しいです。それがないと生活設計が立ちません。
- ・復旧期の方針の後の再生期、発展期のビジョン論争は大いにやって欲しいですが、まず復旧期の方針だけは早く示してほしいです。

(小野田委員長)

- ・指針を提示し議論することを市に提案しています。

(市長)

- ・市民に不安を与えていることは承知しています。早い段階でこの場にお示しして議論していただきたいと考えています。

(委員)

- ・今回の震災は昼の2時46分に発生し、翌日は寒かったです。これが真冬だったらもっとひどかったと思います。防災計画、避難計画などを再検討すべきと考えます。
- ・石巻の商圈は2分されています。蛇田地区に7割が集まっているように思います。コンパクトシティ化を目指すには強いアピールと、市民の強い決意が必要と考えます。
- ・商業圏の棲み分けが必要です。例えばイオンが撤退した場合、蛇田地区は厳しい状態になります、その時まちなかはどうなるのが重要です。

(小野田委員長)

- ・避難のソフト対策見直しは必要です。今回のような災害はハード対策では限界があるのでソフトの計画を立てて避難訓練・教育を行うことが大切です。今後計画が出てくると思うので期待したいです。
- ・中心市街地の問題は中心市街だけでなく、河南や桃生など周辺エリアを含んだ問題だということです。

(事務局)

- ・各委員から意見が出され、今後市の計画とすりあわせを行います。次回の日程は後日連絡します。

(浅野副委員長)

- ・仮設住宅後のまちづくりが議論されたが、10年後の人口・産業がどうなっているのか想定しな

がら計画づくりする必要があります。

- 蛇田地区と中心市街地の問題は切り口が違います。コンパクトシティは効率の良いまちづくりを目指すものであり、悔しいけど「川」、「海」と共生することが必要で、どのように安心を確保するかが課題です。
- 市の計画を「決定する前に意見を聞く」というこの検討委員会は、行政のこれまでにない取り組みでありありがたいと感じています。委員も勉強しながら行政と一緒に努力していきましょう。